

〔嬉遊笑覽容儀〕一下 玄ろきものといふべきを、おしろいといふは、女のもてあつかふ故に、おもしろ  
へ下を略するなり、

〔雅言集覽於三〕三 おしろい ふるくは、玄ろいものといへり、

〔大和本草三五〕三 鉛粉 又定粉、水粉、胡粉トモ云、今國俗唐ノ土ト云、婦人ノ面ニヌルモノ也、

〔日本書紀雄略十四〕四 七年是歲吉備上道臣田狹侍於殿側、盛稱稚媛於朋友曰、天下麗人莫若吾婦略。○中鉛

華弗御、蘭澤無加、

〔日本書紀通證雄略十九〕九 鉛華弗御、蘭澤無加、二句出文選洛神賦、蘭作芳、註鉛華乃粉也、芳澤香油也、志雅堂雜鈔曰、鉛今之水銀賦粉也、

〔日本書紀持統十六〕六 年閏五月戊戌、賜沙門觀成、繩十五匹、綿卅屯、布五十端、美其所造鉛粉、

〔釋日本紀十五〕五 鉛粉

說文曰、傅、面者、臣錯按、周禮饋食有粉、麥米粉也、○中 漬粉爲之也、又紅染之爲紅粉、燒鉛爲粉、始自

夏桀也、

〔事物紀原三〕三 冕首飾、鉛粉

墨子曰、禹作粉、張華博物志曰、紂燒鉛作粉、謂之胡粉、續事始曰、鉛粉、卽紂所造也、

〔延喜式三十七〕七 造供御白粉料

糯米一石五斗、粟一石、內侍、帛裕帟十六口、料帛二疋、御井中、曝白粉帛帷四條、料帛二疋、絹篩四條、五

尺調布二端、帷四條、縫絲三兩、上紙卅張、明櫃四合、水麻筍四口、受五斗、杓三柄、簀二枚、長席二張、醫女

座、由加四口、酒槽二隻、中取二脚、已上三種、共作女醫十四人、人別日飯一升、鹽一勺、滓醬一合、酒三合、

並限卅日給、

〔和漢三才圖會二十五〕五 白粉、粉錫、鉛粉、鉛華、定粉、胡粉、光粉、宣粉、和名之路岐毛能

本綱云、白粉此化鉛所作也、以投炭中、色壞還復爲鉛、得雌黃、相惡互失色、古人名鉛爲黑錫、故名粉錫、

白粉初見

白粉製法